

自治研 お悩み相談室

毎年、自治研集会を開催していますが
毎回、テーマを何にしてよいか悩みます。

回答
自治研マイスター

前回の相談室で紹介した「地方自治研 究全国集会」のほかに、各県本部や各組織単位では、定期的に自治研集会を開いている場合が多いようです。今回、せっかくの機会ですので、集会のテーマ・内容について考える前に、一度、集会の目的について考えてみるのも有意義ではないかと思えます。

元々、自治研集会とは、参加者が活動事例やレポートを持ち寄り、交流をはかることで、自治研の推進をめざすためのもの。しかしありがちなことですが、集会を開くことが目的化していませんか。となると、人集め、レポート集めなど、運営面は気にしても、成果にまで思いがまわらないという結果に……。やはり集会の開催が次の運動につながり、具体的な成果を生んだりするための（しかけ）がそこになければ、なかなか思うような展開は期待できません。つまり自分の組織の自治研推進のために今何が必要なのか、そのことを考えてみるのが、テーマ選びの近道だとも言えます。

たとえば、自治研の停滞化が危惧されるような場合は、思いきって「自治研の推進」自体をテーマにし、推進方法について参加者で話し合ってみてはどうでしょうか。あるいは参加者が固定化していると感じるときは、あえて初心者むけの企画を立て、若い参加者を募る工夫など必要かもしれません。また集会の形式自体も、外部から講師を呼び記念講演をし、分科会に分かれてレポート発表を聞くという従来よくあるようなスタイルにこだわらなくてもいいのではないのでしょうか。時にワークショップやワールド・カフェ、フィールドワークなど、口や体を動かしながら、参加者が主体的に関われる場も有効です。たとえば「農業振興」をテーマにしながらも、学習の合間に、農業体験や特産物の試食会、農家民泊を組み込むなどすれば、立派な体験型自治研になります。せっかく手間も時間もかけるのですから、企画者も参加者も楽しめて、集会の最後には「やってよかった」「また会いましょう」と言い合えるような自治研集会にしてみませんか？

事例 導入・学びそして参加へ 意識的に自治研を推進

——鹿児島では自治研集会を軸に活動の活性化をはかっています。きっかけは？
実は、二〇一一年に第二四回自治研集会を開催するまで、五年間も開催できていませんでした。その間に、自治体を取り巻く状況は一変。小泉構造改革で地方交付税や社会保障費が削減され、地方の高齢者や労働者の生活は厳しさを増しました。こうした政治状況を逆手にとり登場した竹原元阿久根市長は、「市役所職員ばかりが恵まれていていいのか」と市民に訴えて当選。市民対市役所の敵対関係を扇動し、民



ワールド・カフェ

高年齢者や労働者の生活は厳しさを増しました。こうした政治状況を逆手にとり登場した竹原元阿久根市長は、「市役所職員ばかりが恵まれていていいのか」と市民に訴えて当選。市民対市役所の敵対関係を扇動し、民

意をコントロールしようとしていました。——危機感が強まるなか、復活した集会では、どのようなテーマを設定しましたか？

各回のテーマは、別表のとおりです。一歩ずつ進めていこうと、導入、実践に学ぶ、実践するためのノウハウを学ぶといったように、参加から自治研への転換につなげることを意識してきました。

また二〇一三年からは、ワールド・カフェ形式を取り入れています。

——参加者の反応、そして今後は？

どの年も、反応は良かったと手応えは感じてきました。なるべく民間で地域おこしや地域の課題解決に取り組んでいる個人やグループをお呼びし、活動事例の報告と交流をお願いします。

霧島市職労青年部は、二〇一二年から「地域貢献 市民に信頼される青年部をめざす」をスローガンに、労組名を入れたビブスを着用してボランティア活動を行い、部員同士の交流と市民と一体にな

った活動ができたと総括しています。

ボランティア
・災害復旧活動への参加をきっかけに、人間関係が生まれ、地域の課題などが見えてくる。どうしたら解決できるだろうとみんなで考えることが自治研だと気づき、意識的に自治研を推進できればと考えています。

年	テーマ・講師など
2011	「自治研って何？地域を変える自治研力」 丹南市民自治研究センター 伊藤藤夫理事長
2012	「災害復旧・復興支援と地域との協働・実践活動」 石巻市職労 小野寺伸浩書記長
2013	「新しい公共 自治体職員の働き方」反貧困ネットワーク 湯浅誠事務局長
2014	「地域・職場をイキイキさせるための場づくりの コツ ファシリテーションを活かす場を体感する」
2015	「みんなが幸せになるための自治体職員の働き方」九州大学 嶋田暁文准教授

（回答者：鹿児島県本部自治研中央推進委員 猪鹿月弘行さん）

参加者が動き、発言する参加型の集会だと、新しい発想が生まれそうです。

